

中西準子先生, 1:16 PM +0900, 『環境リスク学 不安の海の羅針盤』について

To: 中西準子先生
Subject: 『環境リスク学 不安の海の羅針盤』について
Cc:

メールインタビュー 著者に聞く

中西準子先生

著書
**『環境リスク学
——不安の海の羅針盤』**

四六判・262頁・定価 1890円(税込)・日本評論社



環境問題も、かつての公害のように
誰の目にも見える被害は
非常に少なくなりました。
今、私たちが心配していることの多くは、
目に見えない何か悪い影響があるかもしれない
(中略)というようなことです。これがリスクです。
目に見えないだけに、(中略)
リスク不安だけは大きくなっています。
——「まえがき」より

>なぜ本書を書いたのですか？

2004年2月に横浜国立大学で最終講義をしました。その草稿を練る過程で、私のこれまでの研究を振り返り、自分がいかにファクト(事実)にこだわって研究してきたか、そして今の仕事であるリスク評価には、ファクトを超える発想と方法論が必要であるという矛盾に気づきました。この矛盾は、今の自然科学が共通して抱えているものだと思います、それを伝えたいと思ったのです。

>研究生の「総まとめ」にもなっているようですが、執筆によって見つけ直せたことはありますか？

今後の道がすっきり見えてきました。自分のよい点も限界もわかったので、新しく飛躍できるような気がします。またこの本の刊行で、私をよく理解してくれる人が増えたように感じます。とくに、一緒に公害反対運動に取り組んできた友人たちは、最近の私のダイオキシンなどに対する発言に疑問を抱いていたよう

が、その発言の根底を本書で知り、疑問が氷解したようです。

>本書の売れ行きが上々のようです。環境リスク評価への関心が高まっているということでしょうか？

はい。皆、今の環境問題の解決方法に疑問を抱きはじめているからです。ただ、日本ではまだ「環境リスク評価学」の研究者がほとんどいません。今こそ参入すべきで、とくに化学者には、ぜひこの新分野への転身に興味をもってもらいたいと思います。

>どんな人に読まれたいですか？

リスク評価の結果を使う行政、企業関係者だけでなく、一般の人も理

解しておいてほしい。リスク評価、リスク管理は自治の証です。そして研究者にとっては、知らないと恥ずかしい基礎科目のようなものだろうと思います。

>理系研究者には、本書をどのように読んでもらいたいですか？

環境問題は、あらゆる技術や科学に関係します。現在は、環境問題を科学ではなく善悪で考えている人が多いのですが、当然ながら善悪で環境問題は解けません。科学的な原理は本書に書きました。非常に簡単なことなので、一度読めば環境問題を解くための科学の全体像をつかんでもらえると思います。

●プロフィール

中西 準子(なかにし じゅんこ)

(独)産業技術総合研究所化学物質リスク管理研究センター長

略歴：1938年中国大連市生まれ。61年横浜国立大学工学部化学工業科卒業。67年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。東京大学工学部助手、同大学環境安全研究センター教授、横浜国立大学大学院環境情報研究院教授を経て2002年より現職(～04年まで横浜国立大学教授を併任)。専攻は環境工学、工学博士。

著書(本書以外)：『都市の再生と下水道』(日本評論社)、『下水道——水再生の哲学』(朝日新聞社)、『東海道 水の旅』(岩波書店)、『水の環境戦略』(岩波書店)ほか。